

自然体験の楽しみ

見附市長(新潟県) 久住時男
Tokio Kusumi



自然体験のすばらしさ

8年前、52歳の時、故郷である見附市に戻り、市長になりました。商社勤務を約30年。北米の木材取引から始まり、中国返還の前と後、2回の香港やベトナム駐在を経て、日本に戻って2年足らずの時でした。海外で仕事をしていたころは、優雅とは程遠い駐在生活で、満足に休日も取れない日々でした。それでも、各地の自然をできるだけ楽しみたいと過ごしてきました。そして日本に戻り、経営したアウトドア関連会社が、カヌーやシーカヤックを扱っていたことが縁で、こぎ方を習い、長瀬や伊豆へも出掛けました。東京では海や川に行くのに、何時間も



カヌーに乗って

かかり一日がかりのスポートです。

市長になってみますと、丸一日の休みはなかなか取れませんが、半日は比較的可能です。見附市から日本海まで車で30分、夏に午前半日の休みが取れますと、朝6時に家を出て日本海へ、7時には日本海に浮いています。シーカヤックは海の自転車、静かな早朝は鏡のような海面です。ミズスマシのごとく楽しんだ後、暑くなる前には戻ってきます。夕方には、日本海に沈む夕陽に向かってこぎ出します。大いなる自然に抱かれ、思わず感涙する体験もありました。東京では味わえない大変贅沢な時間です。これは、見附市が海と山、どちらにも30分で行けるといふ、新潟県の「どまん中」にあるおかげでもあります。

また、2人乗りのゴム製のカヌーを自家用車に積んでいます。湖や川で思い立った時、すぐに使えるためです。実際には、見附市にある大平森林公園や、奥只見湖など、まだ数えるくらいしか使用しておりませんが…。



子どもたちのツリーハウス製作体験

自然体験と教育

今の子どもたちに自然体験をさせることは、自信を持ち「生きる力」をはぐくむためにも、極めて重要な施策であると考えてきました。NPO法人RAC(川に学ぶ体験活動協議会)の副代表理事もしておりますが、水道や電気がなくても人は生きてゆける。特に子どもたちには、自然の素晴らしさや怖さ、畏敬の念、ぜひ自然を学ぶ体験をしてもらいたいと思っております。先日、財団法人 河川環境管理財団が企画編集した、「川を活かした体験学習プログラム」に授業に役立つ川の指導書が発刊されました。学校の先生だけでは難しい、自然体験授業の

組み立てと、実施方法などを具体的に掲載してありますので、ご興味ある方は、ぜひ参考にしてください。

Eポート

「Eポート」という名前を聞かれたことがあるでしょうか。全国で防災用として、また、地域交流用として使われている、10人乗りの赤いゴムポートです。毎年、参加者が1000人を超える大会が、全国各地にあります。東京でもお台場で毎年開催されています。前述の体験

学習の本にも、Eポートによる授業例が載っております。この体験学習は、協調性・主体性・積極性・社会性など、7つの教育力があると発表された先生もおられます。

実は、この赤いEポートの開発は、市長になる前の私の最後の仕事でした。メーカーのある欧州の湖で最終試乗し、OKを出し、日本に戻り辞表を提出、2週間後に選挙戦に入ったという次第です。また、見附市は、平成16年の新潟豪雨で、市内を流れる刈谷田川が氾濫し、激甚災害指定を受けました。その際に、このEポートが災害救助用として、十分な機能を持っていることが分かりました。今やEポートは、地域の交流、自然体験として利用されるだけでなく、防災用としても全国に普及しています。市長になり、不思議な縁に驚くことが多々あります。このEポートもその一つです。



市民の森を歩こうイベント

今、全国の多くの市と連携して、スマートウェルネス(健康)シティ構想を立ち上げています。健康を切り口にした、まちづくりの総合計画です。自然体験のできるまちづくりも、「健康」の重要な施策であると思います。災害復旧後の刈谷田川でも、自然体験のメニューを増やし、市民とともに大いに楽しんでゆきたいと考えています。

座右の銘

「一隅を照らす」(照千一隅此則国宝)

私が高校一年の時に、僧職にある英語の先生に教わったものです。人はそれぞれ、世の中を照らしてゆくことと理解し、今日まで大事にしてきました。伝教大師の山家学生式や、史記の典故であること、また、一隅から千里を照らす人材という解釈が正しいことも後で知りましたが、高校の時に理解した意味を大事にしました。

「径寸十枚非是国宝 照千一隅此則国宝」、高校の先生の言葉が一生の銘となり、教育の力をいまかみ締めています。



子どもたちのEポート体験